

専門分野：基礎看護学

<概要>

基礎看護学は、各看護学の基盤であり基本となる看護の考え方や看護技術を学ぶ分野です。
講義 12 科目 12 単位 315 時間、臨地実習 2 科目 3 単位 135 時間で構成されています。

「看護学概論」は看護が人間の健康の保持・増進および回復を目指す看護実践であることを学び、その基盤となる考え方を学びます。「基礎看護技術Ⅰ」～「基礎看護技術Ⅶ」の授業は看護技術を学びます。

看護技術は、科学的根拠に基づいた看護の実践ができるよう学習します。そのベースには、看護の対象となる人との相互理解、相手への関心や気遣い・配慮など看護に必要なコミュニケーション能力が不可欠です。自分自身の言動を振り返り、俯瞰しながらコミュニケーション技術をはじめとする看護技術を修得していきます。知識を覚えるだけでなく、自分で調べ、行動し、振り返り、自分でその人にあった技術を構築していきます。そのためには、教科書や映像教材、教員の技(わざ)を真似る(模倣する)ところから始まり、さらに工夫し自分の身体感覚を研ぎ澄まし、相手の価値観を受け止めたり、共感することが求められます。授業時間だけでなく、実習室を活用し、繰り返して練習し、振り返る学習をして下さい。

「臨床看護総論」「看護過程」では、様々な対象に対して基本的な知識や技術をどのように統合しながら自分の看護実践を具現化していくのか、その際の学習の手がかりを学びます。対象の疾患、症状、検査・処置を関連づけ、その人を捉える、その人らしさが見える看護への思考の基礎作りを学びます。看護過程ではクリティカルシンキングやリフレクションのスキルが必要です。よりよい看護を提供するための思考スキルの理解と習得を目指します。「看護研究」は、看護研究における研究の意義と方法を理解し、看護研究に必要な基礎的能力を身につけます。

臨地実習は2段階で学びます。「基礎看護学実習Ⅰ」は看護活動の現場を、見学を通して医療チームにおける看護の役割を学び、日常生活援助を実施する実習です。2段階目の「基礎看護学実習Ⅱ」は患者と関係を築きフィジカルアセスメントやコミュニケーションをもとよりよい看護を提供するための考え方や実践の方法としての看護過程を学ぶ実習です。自分から課題を見つけ、考えながらそして経験という実践を積み、学んでいくことで臨床判断能力を養っていきます。

<単位>

15 単位 450 時間

<目的>

看護の本質を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。

<目標>

1. 看護の対象や健康を多様な観点で考察する
2. 倫理に基づいた態度や行動がとれる能力を養う
3. 看護援助の基本となるコミュニケーション技術を身につける
4. 科学的根拠に基づいて看護を計画・実施・評価する基礎的能力を修得する
5. 看護における研究の意義と方法を理解し、看護研究に必要な基礎的能力を身につける。
6. チーム医療における看護師の役割や多職種との連携・協働を学ぶ
7. 専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度を養う

<基礎看護学の科目構成と単位時間数等>

科 目	単 位	時 間	年 次	時 期	学 習 内 容
看護学概論	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護とは ・看護の対象の理解 ・国民の健康・生活の全体像の把握 ・看護の提供者 ・看護における倫理 ・看護の提供のしくみ ・広がる看護の活動領域
看護理論	1	15	1	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護理論とは ・看護理論の歴史と動向 ・主な看護理論と看護実践 ・ゴードンの機能的健康パターンと看護実践への活用
臨床看護総論	1	30	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床判断とは ・臨床判断モデル ・臨床判断モデルを取り入れた事例演習 ・シナリオ・シミュレーション演習
看護過程	1	30	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の基になる考え方と理論 ・看護過程の構成要素 ・看護記録 ・事例で学ぶ看護過程の展開
看護研究	1	15	3	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究とは ・文献レビューとその方法 ・研究における倫理的配慮 ・研究の設計と方法の選択
基礎看護技術Ⅰ (感染予防・環境・安全)	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の技術 ・環境を整える技術 ・安全管理の技術
基礎看護技術Ⅱ (コミュニケーション・活動・休息)	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの技術 ・基本的活動の援助 ・睡眠・休息の援助
基礎看護技術Ⅲ (食事・排泄)	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活と栄養摂取の援助技術 ・排泄の援助技術
基礎看護技術Ⅳ (清潔・衣生活)	1	30	1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔の援助技術 ・衣生活の援助技術
基礎看護技術Ⅴ (フィジカルアセスメント)	1	30	1	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント
基礎看護技術Ⅵ (与薬・輸血)	1	30	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・与薬の技術(与薬の基礎知識・与薬方法) ・輸血の技術・酸素療法
基礎看護技術Ⅶ (検査)	1	15	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・検査に伴う看護技術
合計	12	315			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
看護学概論	専任教員	1年次前期	1単位/30時間
科目目標			
1. 看護の基本概念を学ぶ 2. 保健、医療、福祉における看護の機能と役割の重要性を理解する 3. 看護の対象である人間を統合的に理解し、看護実践の基礎を習得する			
教科書		参考文献	
1) 茂野香おる：系統看護学講座専門分野Ⅰ看護学概論. 基礎看護学①、医学書院. 2) F・ナイチンゲール著小玉香津子訳：看護覚え書、第7版、現代社		1) ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます、小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会、最新装版	
評価方法			
筆記試験 課題レポート (100%)			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1～3回	看護とは	1. 看護の本質 看護の変遷・定義 看護理論とは(F ナイチンゲール・V. ヘンダーソン) 看護技術とは 2. 看護の役割と機能 3. 看護の継続性と情報共有	講義
第4～5回	看護の対象の理解	1. 人間の「こころ」と「からだ」 2. 生涯発達しつづける存在 3. 人間の「暮らし」の理解	
第6～7回	国民の健康・生活の全体像の把握	1. 健康のとらえ方 2. 国民の健康状態 3. 国民のライフサイクル	
第8～9回	看護の提供者	1. 職業としての看護 2. 看護職の資格と養成にかかわる制度 3. 看護職者の継続教育とキャリア開発 4. 看護職の養成制度の課題	
第10～11回	看護における倫理	1. 現代社会と倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3. 看護実践における倫理問題への取り組み	
第12～13回	看護の提供のしくみ	1. サービスとしての看護 2. 看護サービスの提供の場 3. 看護をめぐる制度と政策 4. 看護サービスの管理 5. 医療安全と医療の質保証	
第14回	広がる看護の活動領域	1. 国際化と看護 2. 災害時における看護	
第15回	筆記試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
看護理論	専任教員	1年次後期	1単位/15時間
科目目標			
1. 看護理論を学ぶことの意義について理解する 2. 主な看護理論の特徴と実践への活用を理解する 3. ゴードンの機能的パターンと看護実践に活用を理解する			
教科書		参考文献	
1) 茂野香おる：系統看護学講座専門分野Ⅰ看護学概論. 基礎看護学 ①看護学概論、医学書院. 2) 江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、第6版、ヌーヴェルヒロカワ		1) 野嶋佐由美：看護学の概念と理論的基盤、日本看護協会出版会.	
評価方法			
筆記試験 課題レポート (100%)			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回	理論とは	1.理論の定義 2.用語の定義 3.理論の種類 4.看護理論の歴史と動向	講義
	看護理論の歴史と動向	1.看護理論の誕生と開発 2.看護理論と教育・研究	
第2～3回	主な看護理論と看護実践	1.主な看護理論(V.ヘンダーソン,シスター・カリスタ・ロイ 他) 2.中範囲理論とは 3.NANDA	
第4～7回	ゴードンの機能的健康パターンと看護実践への活用	1.ゴードンの機能的健康パターンとは 2.ゴードンの機能的健康パターンの理論的背景	講義・演習
第8回	筆記試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
看護過程	専任教員	2年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 看護過程の概要及び意義を理解し、展開の方法を理解する 2. 看護実践の基盤となる思考過程を学ぶ 3. 記録・報告の方法を理解する			
教科書			
1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 2) 江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、第6班、ヌーヴェルヒロカワ 3) T.ヘザー：ハードマン：NANDA-I看護診断の定義と分類、医学書院。 4) 石川ふみよ：看護過程の解体新書、学研メディカル秀潤社。（なし） 5) 石川ふみよ：実習記録・看護計画の解体新書、学研メディカル秀潤社。（なし）			
評価方法			
筆記試験 課題レポート（100%）			
授業計画			
回	単 元	授業内容	授業方法
第1～2回	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	1. 看護過程とは 2. 看護過程と問題解決方法との関係 3. クリティカルシンキング 4. リフレクション 5. 看護過程の変遷	講義 演習
第3～6回	看護過程の各段階 看護記録	1. アセスメント 2. 看護診断の特定 3. 計画立案 4. 実施 5. 評価 1. 看護記録に関する法的規定 2. 看護記録の目的と意義 3. 看護記録の構成要素 4. 看護記録の記載基準 5. 看護記録及び診療情報管理 6. 医療情報管理	
第7～14回	事例で学ぶ看護過程の展開	ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程	
第15回		筆記試験	

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
臨床看護総論	専任教員	2年次前期	1単位/30時間
科目目標			
1. 臨床判断とは何かを理解できる。 2. 臨床現場で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断過程を思考できる。			
教科書		参考文献	
1) 高木永子：看護過程に添った対症看護、学研. 3) 基礎と臨床がつながる疾患別看護過程、学研.		1) 三浦友里子、奥裕美：臨床判断ティーチングメソッド、医学書院.	
評価方法			
筆記試験(10%) 課題(90%)			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1～3回	臨床判断	1. 臨床判断とは 2. 臨床判断の構成概念 3. 臨床判断のプロセス 4. 臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」を臨床現場で遭遇しやすい事例で体験する	講義 演習
第4～7回	臨床判断の実際	1. 臨床看護場面で遭遇する症状における臨床判断の実際 1) 発熱のある患者 2) 腹痛のある患者 3) 呼吸困難のある患者	
第8～15回	シナリオ・シミュレーション演習	1. 腹痛・咳嗽・発熱を主訴とした3事例 1) シナリオ作り 2) シナリオ練習と修正 2. シナリオの発表(演示) 3. ピア評価 4. 教員評価	

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
看護研究	専任教員	3年次前期	1単位/15時間
科目目標			
1. 看護における研究の意義を理解する。 2. 文献レビューとその方法を理解する。 3. 研究における倫理的配慮を理解する。 4. 研究の設計と方法の選択について理解する。			
教科書		参考文献	
1) 坂下玲子他：系統看護学講座別巻看護研究、医学書院.		1) 南裕子：看護における研究、日本看護協会出版会 2) 川島みどり、黒田裕子：看護のエビデンス、中山書店. 3) 小松浩子、菱沼典子：看護実践の根拠を問う、南江堂.	
評価方法			
筆記試験、レポート (100%)			
授業計画			
回	単元	授業内容等	授業方法
第1回	看護研究とは	1 看護研究とは何か 2 なぜ看護研究を学ぶのか	講義 演習
第2回	文献レビューとその方法	1 文献とその種類 2 文献検索の方法	
	研究の設計と方法の選択	1 研究デザインの選択 2 研究デザインの整理 1) 質的研究デザイン 2) 量的研究デザイン	
	研究における倫理的配慮	1 研究における倫理的配慮の原則 2 依頼書と同意書の書き方	
第3回～ 5回	調査研究、実験研究、質的 記述的研究論文の進め方	調査研究、実験研究、質的記述的研究 (グループで研究論文を選択し、プレゼンテーション の準備を行う)	
第6回～ 8回	調査研究、実験研究、質的 記述的研究論文の進め方 試験	調査研究、実験研究、質的記述的研究 (グループ毎にプレゼンテーション)	

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
基礎看護技術 I (感染防止・環境・安全)	専任教員	1 年次前期	1 単位／30 時間
科目目標			
1. 感染防止の基本的知識を理解し、それを実践する能力を養う。 2. 療養環境を構成する要素を理解し、環境のアセスメントと調整技術を習得できる。 2. 療養生活における安全管理が理解できる。			
教科書			
1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、医学書院. 2) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③、医学書院. 3) 任 和子他:根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院. 4) F・ナイチンゲール著小玉香津子訳:看護覚え書、第7版、現代社、2011.			
評価方法			
筆記試験・課題レポート (100%)			
授業計画			
回	単 元	授業内容	授業方法
第 1 回 ～7 回	感染予防の技術	1. 感染予防策 1) 感染源対策 洗浄 消毒 (煮沸消毒、熱水消毒、薬剤による消毒) 滅菌 (滅菌法、滅菌処理の確認、滅菌物の使用期限) 2) 感染経路別対策 手洗い(スクラブ法、ラビング法) ※ 隔離 廃棄物 2. 感染予防の技術 個人防護用具 ※ (未滅菌手袋、マスク、ゴーグル、ガウン・エプロンの着脱) 滅菌物の取り扱い ※ (無菌操作:包装された滅菌物、消毒セットの取り扱い、 滅菌手袋の着脱)	講義 校内実習※
第 8 回 ～13 回	環境を整える技術	1. 療養生活と環境 2. 病室の環境のアセスメントと調整 個室と多床室、温度・湿度、光と音、色彩 空気の清浄性において、人的環境 3. ベッドメイキング ※ 4. 離床できない患者の環境整備・リネン交換 ※	講義 校内実習※
第 14 回	安全管理の技術	5. 療養生活における安全管理	
試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
基礎看護技術Ⅱ (コミュニケーション・活動・休息)	専任教員	1年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 看護におけるコミュニケーションの重要性が理解できる。 2. コミュニケーションの基本的な方法について学び、それを実践できる。 3. ボディメカニクスの原理が理解できる。 4. 活動・休息の援助方法が習得できる。			
教科書			
1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②、医学書院. 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③、医学書院. 3) 任 和子他:根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.			
参考文献			
1)宮本真巳：看護場面の再構成、日本看護協会出版会、1995.			
評価方法			
筆記試験・課題レポート(100%)			
授業計画			
回	単 元	授業内容	授業方法
第1回 ～6回	コミュニケーションの 技術	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 3. コミュニケーションの実際 再構成の展開 ※	講義 演習※
第7回 ～13回	基本的活動の援助	1. 基本的活動の基礎知識 よい姿勢 体位 ボディメカニクスの基本 2. 廃用症候群と予防 3. 褥瘡の予防 4. ボディメカニクスの活用 ※ 5. 移動の援助方法 ※ 体位保持(ポジショニング) 安楽な体位の調整 体位変換 歩行 車椅子での移乗・移送 ストレッチャーでの移乗・移送 自動運動・他動運動の援助	講義 校内実習※
第14回	睡眠休息の援助	6. 安静保持の援助 7. 睡眠の援助 睡眠障害の種類とケア	
第15回	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
基礎看護技術Ⅲ (食事・排泄)	専任教員	1年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 食事と栄養の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、援助技術を習得する。			
教科書			
1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②、医学書院. 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③、医学書院. 3) 任 和子他:根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.			
評価方法			
筆記試験・課題レポート (100%)			
授業計画			
回	単 元	授業内容	授業方法
第1回 ～6回	食生活と栄養摂取の援助技術	1. 食事・栄養摂取の意義と仕組み 2. 栄養状態および摂食能力 3. 食欲や食に対する認識のアセスメント 4. 食欲不振、嘔気・嘔吐の看護 5. 食事の種類と形態 6. 食事摂取の介助 ※ 7. 非経口栄養摂取(経腸栄養法) 8. 中心静脈栄養を行う患者の援助 9. 末梢静脈栄養を行う患者の援助	講義 校内実習※
第7回 ～14回	排泄の援助技術	1. 排泄の意義とメカニズム 2. 排泄のアセスメント 3. 自然排泄の援助 トイレを使用した排泄の援助 ポータブルトイレを使用した排泄の援助 ※ 床上排泄の援助 ※ 4. 排尿障害のある患者の援助 頻尿と尿失禁 排尿困難と尿閉 導尿 5. 排便障害のある患者の援助 便秘 下痢 浣腸 ※ 摘便 ※	講義 校内実習※
第15回	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術Ⅳ (清潔・衣生活)	専任教員	1年次前期	1単位/30時間
科目目標			
1. 清潔の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 衣生活の意義を理解し、援助技術を習得する。			
教科書			
1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②、医学書院. 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③、医学書院. 3) 任 和子他:根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.			
評価方法			
筆記試験・課題レポート(100%)			
授業計画			
回	単元	授業内容	授業方法
第1回 ～13回	清潔の援助技術	1. 清潔の援助の基礎知識 皮膚・粘膜・口腔内の構造と機能 清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 清潔行動のアセスメント 2. 清潔の援助の実際 入浴・シャワー浴 ※ 全身清拭 ※ 洗髪 ※ 手浴 ※ 足浴とフットケア ※ 陰部洗浄 ※ 整容(洗面、眼耳鼻の清潔、爪切り、髭剃り) ※ 口腔ケア ※	講義 校内実習※
第14回	衣生活の援助技術	3. 衣生活 衣服を用いることの意義 病衣の選び方 寝衣交換 ※臥床時の更衣、制限・条件のある人の更衣	
第15回	試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術V (フィジカルアセスメント)	専任教員	1年次後期	1単位/30時間
科目目標			
1. ヘルスアセスメントの意味と重要性を理解する。 2. フィジカルアセスメントに必要な基本知識・技術を学ぶ。 3. 基本的知識に基づき系統別フィジカルイクザミネーションによって得られた結果の意味がわかる。			
教科書			
1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、医学書院。 2) 医療情報科学研究所:看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント、メディックメディア。 3) 坂井建雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①、医学書院。 4) 任 和子他:根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院。			
評価方法			
筆記試験・課題レポート (100%)			
授業計画			
回	単 元	授業内容	授業方法
第1回	ヘルスアセスメント	1. ヘルスアセスメント ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 問診	講義 校内実習※
第2回 ～8回	フィジカルアセスマ ント	2. フィジカルアセスメントに必要な技術 視診、触診、聴診、打診 3. 全身状態 4. バイタルサインの観察とアセスメント ※ 体温、脈拍、呼吸、血圧、意識 5. 計測 ※ 身長、体重、皮下脂肪厚、腹囲 発育状態のアセスメント	
第9回 ～14回	系統的フィジカルアセ スマ メント	6. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 胸郭の動き、呼吸音の聴取、胸部の打診、検査所見 ※ 7. 循環器系のフィジカルアセスメント 心音の聴取 ※ 8. 乳房・腋下のフィジカルアセスメント 9. 腹部のフィジカルアセスメント 腹部の視診、聴診、打診、触診 ※ 10. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 関節可動域、徒手筋力テスト (MMT) 11. 神経系のフィジカルアセスメント 運動機能の評価、間隔機能の評価複合間隔の観察、 小脳機能の評価、反射 12. 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント 眼、耳 (聴覚・平衡感覚を含む)、鼻 口 (口腔と咀嚼・嚥下機能) 頸部、肩、甲状腺 13. 外皮系のフィジカルアセスメント	
第15回	試験		

科目名		科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術VI (与薬・輸血・酸素吸入療法)		専任教員	2年次前期	1単位/30時間
科目目標				
1. 与薬に伴う看護師の役割と責任を知る。 2. 薬物の作用・投与量・投与方法を理解する。 3. 注射法の技術を習得する。				
教科書				
1) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②、医学書院. 2) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③、医学書院. 3) 任 和子他:根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.				
評価方法				
筆記試験・課題レポート (100%)				
授業計画				
回	単 元	授業内容		授業方法
第1回 ～11回	与薬の技術	1. 与薬の基礎知識 薬物の基本的性質 (与薬方法、薬物動態) 3. 与薬における看護師の役割 正しい与薬とは 作用・副作用、患者のアセスメント 薬品の確認方法 (6R)、指導 薬の管理 (処方箋、法律、劇薬・毒薬・麻薬の管理) 4. 経口与薬・口腔内与薬 5. 吸入 6. 点眼 7. 点鼻 8. 直腸内与薬 9. 注射 注射の基礎知識、針刺し事故防止 注射による合併症 注射器・注射針・アンプル・バイアルの取り扱い ※ 皮内注射 皮下注射 ※ 筋肉内注射 ※ 静脈内注射 ※ 点滴静脈内注射 ※ 10. 与薬における医療事故		講義 校内実習※
第12回	輸血の技術	11. 輸血管理 輸血療法の基礎知識、輸血療法の実際		
第13回 ～14回	酸素療法	12. 酸素吸入療法 酸素吸入療法の概要 酸素療法 (酸素吸入療法) ※ 中央配管方式による方法 酸素ボンベによる方法、 酸素ボンベの取り扱い		
第15回	試験			

科目名		科目担当者	開講時期	単位数/時間数
基礎看護技術Ⅶ (検査)		専任教員	2年次前期	1単位/15時間
科目目標				
1. 検査時の看護師の役割を理解する。 2. 検査に伴う看護師の役割と責任を知る。				
教科書				
1) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②、医学書院. 2) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③、医学書院. 3) 任 和子他:根拠事故防止からみた基礎・臨床看護技術、医学書院.				
評価方法				
筆記試験・課題レポート (100%)				
授業計画				
回	単 元	授業内容		授業方法
第1回 ～7回	検査を受ける患者の 看護	1. 検査を受ける患者の理解 2. 検査に伴う看護の役割 安全面からの援助 安楽面からの援助 3. 検体検査に伴う看護技術 血液検査 静脈血採血 ※真空採血管を用いた静脈血採血 動脈血採血 血糖測定 尿検査 ※試験紙による尿検査法 便検査 喀痰検査 7. 検査・処置の介助 X線検査 コンピューター断層撮影 (CT) 磁気共鳴画像 (MRI) 内視鏡検査 超音波検査 (エコー検査) 肺機能検査 核医学検査 穿刺: 胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺		講義 校内実習※
第8回	試験			